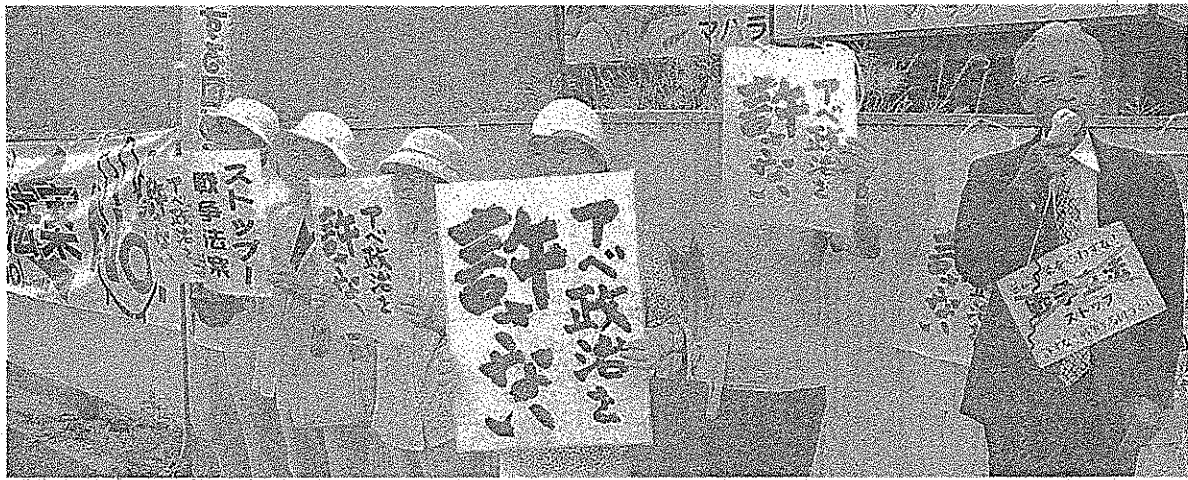


ストップ戦争法案 各地で



宣伝する会の人たちと、渋谷県議（右端）＝27日、新潟市東区

新潟 「戦争する国」ノー

新 渋谷県議ら30人宣伝

毎週水曜と木曜にスタンディング宣伝している新潟市の「ストップ戦争法案・東区の会」は27日、区内の大通りで宣伝しました。足立定夫弁護士、日本共産党の渋谷明治県議ら30人以上が参加しました。渋谷県議は「自衛隊は戦争法案成立前にアメリカとの軍事計画を進めている。こんな法案は到底許すわけにはいかない。戦争する国にはいけません」と訴えました。

参加者の肥田野千春さん（83）は「13歳のときに戦争時代を体験し、着る物も食べる物も何も無い苦しい生活だった。侵略戦争を正しい戦争だと教育された。自分で侵略戦争を認めない安倍首相には腹立たしい。戦争法案

吉岡節子さん（68）は「子や孫たちに、将来苦しい思いをさせたくない。反対です」と語りました。



地域で戦争法案反対について話し合う参加者＝27日、富山市

静岡の宣伝に若者反響 「首相答弁ごまかし」 「戦争は怖い」と署名

静岡県社会保険推進協議会は27日、戦争法案反対の世論を広げようと、静岡市のJR静岡駅コンコースで署名宣伝を行いました。県保険医協会、年金者組合、新婦人など7団体23人が参加し、45分

90人分の署名を集めました。山田美香・県保険医協会副理事長は「朝鮮戦争時には日本赤十字社の従軍看護師が戦場に送りこまれた。医療従事者だけでなく、診療所も自衛隊の管理下にされれば、住民の医療も脅かされる。患者のいのちを守るため、いのちを奪う法案に強く抗議する」と力説。年金者たちも戦争体験などを述べ、戦争法案反対を訴えました。千葉県から旅行にきていて署名した男性（18）は「平和安全法制と名前をつけて、危険なことを危険でないという安倍政権のごまかし感ハンパない。それで若者が戦場に送られるんだから冗談じゃない」と話しました。夏休み中の若い女性たちも「戦争はこわい」と協力しました。

住職「戦前は寺の鐘、供出」

富山市呉羽集会「声出せる間に反対を」

「戦争法案を考える（ほんしょう）も供出つどい」が27日夜、富山市呉羽地域で開かれました。元社民党の原議や民主団体、市民団体の役員や僧侶など17人の住民が呼びかけたもの。30人余が参加しました。全日本民医連が作製した戦争法案のDVDを視聴した後、5人の呼びかけ人が戦争法案への思いを発言しました。浄土真宗本願寺派の僧侶、鈴木修さんは、「戦前は宗派も戦争に協力し、寺の梵鐘

い」と協力しました。駿河区の女性（73）は「子どもたちに広島原爆の実情など戦争の悲惨さを伝える活動をしている。戦争しないと誓った国がコロコロと変わるなんておかしい。憲法9条の大切さを広めたい」と署名しました。

8/29 赤旗